第4回IF学生成果発表会

"Innovative" and "Creative" Approaches to a New Clinical Medicine グループ

２０１１．９．２０
医学部１号館
第２セミナー室

開会の挨拶

八重樫　伸生教授
Prof. Nobuo Yaegashi
（婦人科学分野）

みなさん　おはようございます。
今日はグローバルＣＯＥ　ネットワークメディスンが行う、ＩＦの学生成果発表会の第４回です。みなさんが今日のこの会で自分たちの成果を発表できることを大変うれしく思います。
これまでの研究では、得てして狭い研究分野に特化して、狭い視野で研究を進めがちでした。しかし。わたしたちのグローバルＣＯＥでは、ネットワークメディスンというキーワードの元に、さまざまな学際的な領域の研究者が集まり、お互いに情報交換を行ってきました。その結果、すでにいくつかの研究室では共同研究をはじめています。そういったことが、新しい研究を生み出していくものと信じています。そのような研究の最前線で最も活躍するのが大学院生の皆さんです。活発な議論が繰り広げることで、お互いに刺激しあい、学際領域の研究を推進することになれば幸いです。どうぞ有意義な時間を持っていただければ幸いです。

Good morning everybody.
I am very happy to be here with you. Because, we have the 4th seminar of presenting results by graduate students of the innovative and creative approaches to a new clinical medicine group, today. Graduate students usually tend to study in a very narrow field. However, in our global COE program, under the new coined word, network medicine, lots of researchers from various fields gather, communicate and exchange their information. Some laboratories have already started their joint research.
I believe they will create epoch-making research fields in future. In such a frontline, you should be the most active players. I hope you present and discuss your data intensively and positively today, which will stimulate each other and promote interdisciplinary force. Please enjoy this precious opportunity.

学生発表

金子　寛
Mr. Hiroshi Kaneko
（医化学分野）

私が発表の機会を頂いた第４回「新しい医学」では、質量分析や分子生物学の最先端技術を駆使した成果発表が多数あり、実に刺激的な回でした。私自身は、小野川先生が目標とされた、「専門が異なる聴衆に分かり易く説明する」ことの大変さを痛感し、非常に良い発表経験をさせて頂きました。
また、参加者からの質疑応答も活発な上、自分とは異なる視点の質疑では勉強させて頂くことが多々ありました。今回の発表で頂いた質問等を自身の研究に活かし、大きく発展させて行きたいと思います。最後になりますが、今回このような素晴らしい交流の場を設け設けて頂けたことを、ご挨拶・ご指導いただいた先生方を始め、司会を担当して頂いた小野川先生に厚く御礼を申し上げます。

Identification and analysis of novel transactivation domain of transcription factor GATA1

IF 学生成果発表会では他分野の方々の前で発表をさせて頂く貴重な経験をさせて頂きました。普段の同分野の中での発表と異なり、違った視点の鋭い質問をいくつも頂き、改めて自分の研究を見直し発展させる良い機会を与えてもらえたと思います。また、私は生理学的実験をメインとしているため、他分野の（最新の）研究手法や論理的展開は実に新鮮であると同時に有意義に勉強させてもらいました。同時期に学位を志望した方との発表会であり、分野が違いながらも良い刺激を受けました。このような貴重な機会を与えて頂き深く御礼申し上げます。

村上　康司
Mr. Kohji Murakami
（呼吸器病態学分野）

Toll 様受容体４シグナリングによるブタ気道粘膜下腺細胞での気道分泌増強効果の検討

藤川　奈々子
Ms. Nanako Fujikawa
（消化器外科学分野）

今回は、このような貴重な発表の機会を与えて頂きありがとうございました。開催にあたり、ご尽力下さった皆様に感謝申し上げます。臨床から、何も分からない私が、基礎研究室へ出向し、実験を始めて約２年半となりました。研究とは、“自分のデータ及び関連データから、矛盾のないストーリーを作り上げ、議論すること”であると、ようやく実感してきたところです。今回は、自分の作り上げたストーリーを、いかに分かりやすく興味深く伝えられるか、という貴重な機会であったと思います。他分野の先生方が疑問に思う点、興味を持つ点などを知ることができ、これからの研究のまとめ、学位審査に向けて非常に有意義であったと感じました。

Keap1 Degradation by Autophagy for Maintenance of Redox Homeostasis

高舘　達之
Mr. Tatsuyuki Takadate
（消化器外科学分野）

第４回 IF 発表会は「新しい医学」というテーマの下、非常に多岐に富んだ興味深い発表、討議がなされました。私は今回の発表で、20分という限られた時間の中で、自分の研究のことを初めて聴く、専門分野の異なる人に、いかに分かり易く伝えるかということを学ぶことができました。実際には、緊張もあり、流暢な発表ではありませんでしたが、貴重なご質問やご意見をいただくことができ、学位審査を前に、このような機会を得たことは非常に良い経験になったと思います。このような機会を作っていただきました、NM-GCOE の先生方、拠点支援室の皆様に厚く御礼申し上げます。

Proteomic Forecast of Postoperative Prognosis of Pancreatic Cancer using Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Tissue

中村　敦
Mr. Atsushi Nakamura
（呼吸器病態学／
生物化学分野）

今回は内外の研究者に発表するということで、改めて自分の研究を見つめ直し、整理するいい機会をいただきました。「"Innovative" and "Creative" Approaches to a New Clinical Medicine」というテーマのもと様々な研究内容が発表され、非常に刺激を受ける時間となりました。

討論の中で、今まで指摘されていた内容に加え、新たな視点での指摘によって、今後やっていかなくてはいけないことが明確になったと感じております。今回のアドバイスを生かし、自分の研究をより興味深いものにしていきたいと思います。このような発表の機会を与えて頂きありがとうございました。

Bach2 regulates the pulmonary surfactant homeostasis in the lung and may present new candidate therapeutic targets of pulmonary alveolar proteinosis.

IF 発表会では他分野の先生方の様々な研究に関する発表を聞くことができ、自分自身も学位審査前に発表の機会を得られ、とても有意義な会でした。今回は自分も含め７人の先生の発表でしたが、他の先生の発表を通して研究の進め方など参考になることが多く、また興味深い結果をわかりやすく説明されていて勉強になりました。前の先生方の素晴らしい発表の後でとても緊張しましたが、発表に対しての質問やアドバイスも多く頂くことが出来、今後の研究や学位審査に活かしていきたいと思いました。

近藤　亜希子
Ms. Akiko Kondo
（婦人科学分野）

Epigallocatechin-3-gallate potentiates curcumin's ability to suppress uterine leiomyosarcoma cell growth and induce apoptosis

今回、新しい医学というテーマで所属が異なる大学院生の間で研究成果を発表する機会をいただきました。全く異なる視点から質問やコメントを受けることができ、これまでに気づかなかった問題点が明らかになり、将来の研究の意義や方向性を再確認することができました。また、私にとって２０分間という長い時間の日本語での発表は大変緊張しましたが、これからの学位審査に向けて非常によい経験になったと思います。このような機会を作っていただきましたNM-GCOE の先生方、拠点支援室の皆様に深くお礼申し上げます。

楽　暁妮
Ms. Yue xiaoni
（婦人科化学分野）

Steroid and Xenobiotic Receptor (SXR) as a Possible Prognostic Marker in Epithelial Ovarian Cancer

閉会の挨拶

これまではそれぞれが特定の問題に専念した数年間だったと思います。この間に身につけた科学的な考え方と問題を解決する力は、応用の効く力、技術、です。学位を取った後はみなさんの実力ををそれぞれの領域で活用し、医学の発展に貢献していただきたいと思います。
今日はありがとうございます。

五十嵐　和彦教授
Prof. Kazuhiko Igarashi（生物化学分野）

オーガナイザー・司会

小野川　徹　先生
Dr. Tohru Onogawa
（肝胆膵外科・院内講師）

有意義な発表会になるようにと、事前に何度も発表者とコンタクトを取られ、当日までには、すっかり「熱い先生」の異名が。
臨床で多忙なスケジュールの中、全４回全てにご参加いただき、学生へ質疑・コメントをして下さいました。

大変ご尽力いただき、ありがとうございました。

以上で４回計 28 人による IF 発表会は終了となります。
学生の皆さん、学位審査までの最後の追い込み、そしてその後の進路に向けて頑張って下さいね。

皆さま、長時間大変お疲れ様でした。